

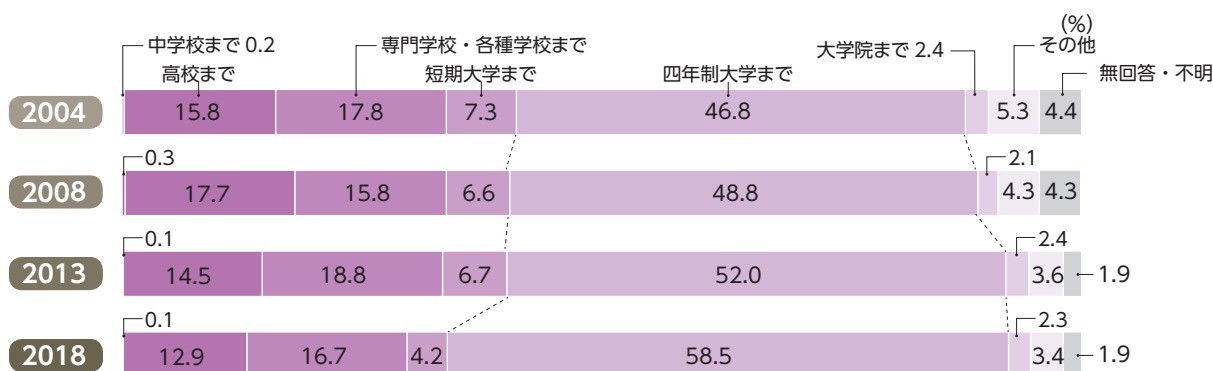
6-1 子どもへの教育期待

約6割の保護者が「四年制大学まで」の進学を期待

子どもを「四年制大学まで」進学させたいと考える保護者の比率は、04年から継続して増加し、58.5%となった。留学意向については、「留学させたい(必ず+できれば)」と考える保護者は、13年から、小学生で7.9ポイント、中学生で4.3ポイント増加し、小学生で31.0%、中学生で27.3%となった。ただし、「留学させたいとは思わない」と考える保護者も小学生で32.7%、中学生で43.0%にのぼる。「わからない・まだ決めていない」保護者は小学生で35.5%、中学生で28.7%であった。

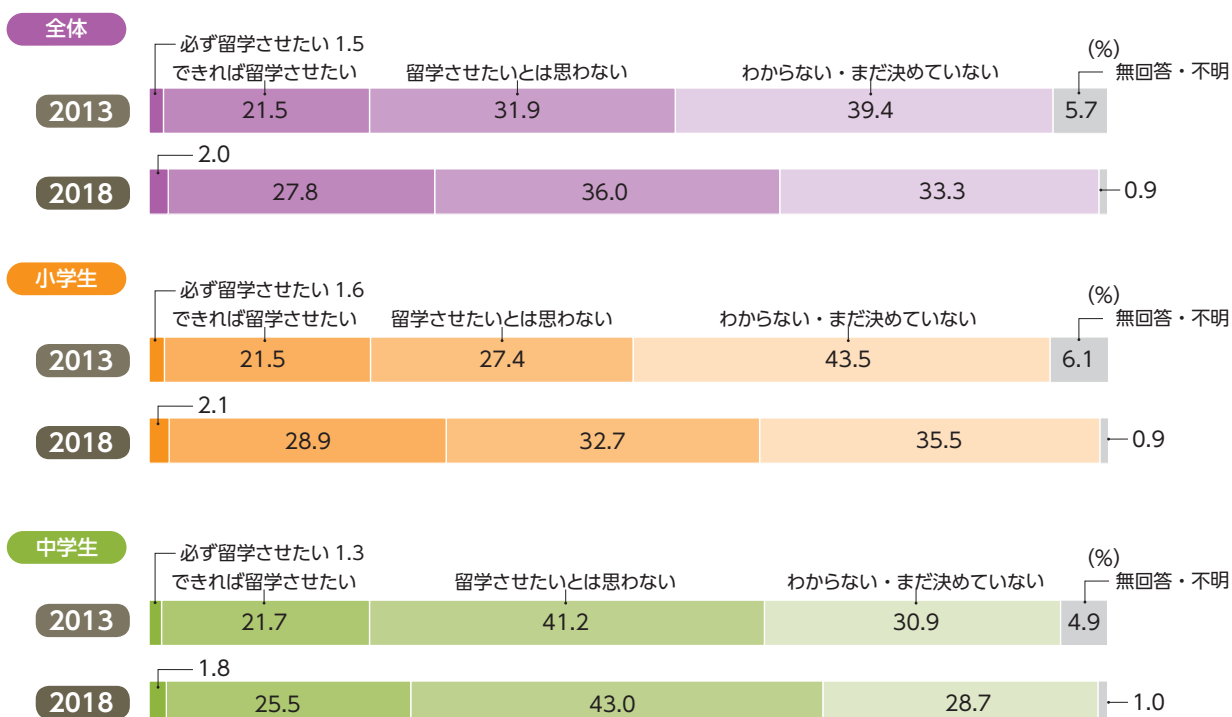
Q あなたはお子様をどこまでの学校へ進学させたいとお考えですか。

図6-1 子どもへの進学期待(全体 経年比較)



Q あなたは、将来、お子様を海外留学させたいと思いますか。

図6-2 子どもの留学への意向(全体 学校段階別 経年比較)



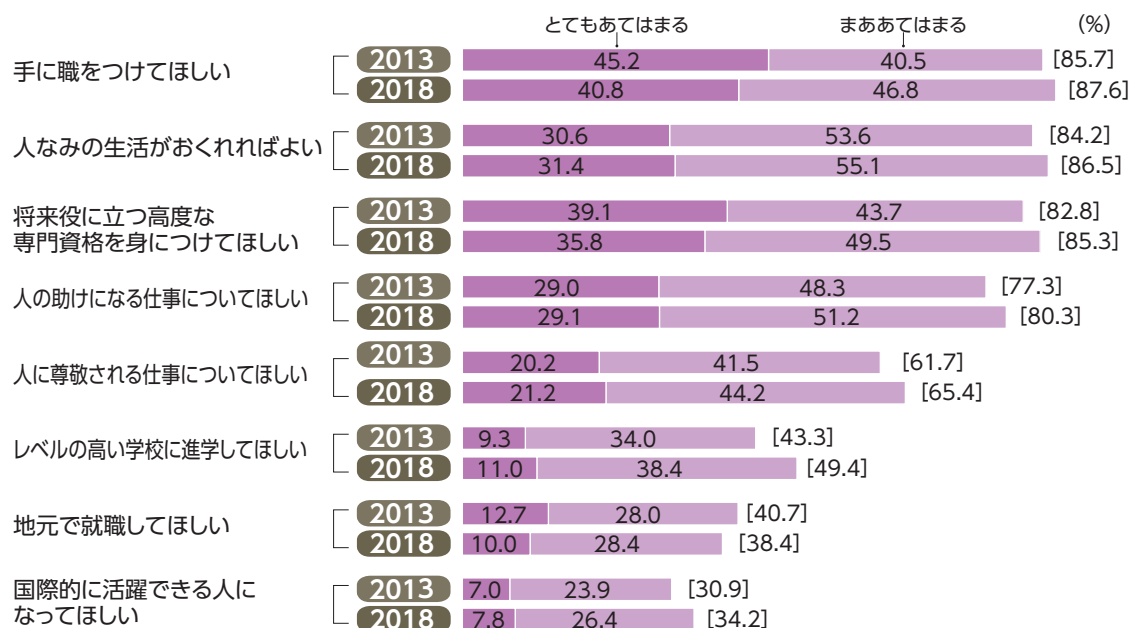
6-2 日本社会の変化に対する意識

「手に職」「人なみの生活」を期待する保護者は8割以上

子どもの将来については、「手に職をつけてほしい」(87.6%)、「人なみの生活がおくれればよい」(86.5%)と考える(「とてもあてはまる」+「まああてはまる」)保護者の比率が高い。今後の日本社会の変化については、「日本で仕事をするにしても海外の人や企業とつきあう力が今より必要になる」(88.0%)と「思う(とても+まあ)」保護者の比率がもっとも高かった。「人工知能(AI)の発達によって人間の仕事が変わる」と思う保護者も約8割(79.7%)にのぼった。

Q あなたは、お子様の将来についてどのように考えていますか。

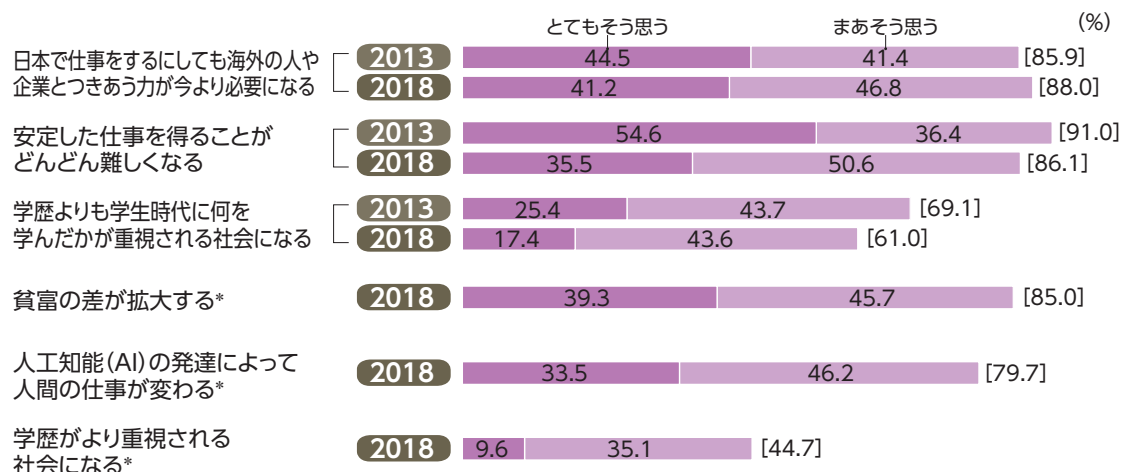
図6-3 子どもの将来に期待すること(全体 経年比較)



注 []内は「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%。

Q あなたは、今後の日本社会はどのように変化すると思いますか。

図6-4 日本社会の変化に対する意識(全体 経年比較 2018年)



注1 []内は「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。

注2 *は2013年にたずねていない。